



中田國太郎選

投稿数19首

引間豊作選

投稿数24句

春の陽に輝き増し椿の葉青ほのかに紅差し初むる
 春の光の温もりに自然界も漸く命の胎動を感じられる。その動きを春の木の椿で捉えて描写し、いい歌になつてゐる。特に下の句で「ほのかに紅を差し始めた椿」に作者の繊細な感覚が反映されていると感じた。ただ、三句切れによって印象が一分されていて惜しい。例えば「春の陽に椿の葉光り葉がくれの青ほのかに紅差し初むる」とすれば「ほのかに」が生きてくる。感動の焦急化である。牧水の「秋父町出はづれ来れば機織の唄」の古り屋並に」と機織が核である。金子作自然体の生き方に共感。浅見作深く美しい努力に敬意。塙田作詠じよしよ。

今日を生き明日も生きてその先は神と仏のご意思のままに
 衰える脳を励まし惚けまじと夜のじしまに短歌を詠みぬ

亡母の夢お着物召して上品に笑まふはうれし無言は寂し
 首都高の渋滞となり春の陽に煌くビルをしばし眺むる

慈愛もて育みくれし遠き日の追憶慕いぬ今日は父の忌
 枯山の囁く如くよみがえりホームの愛に心萌え立つ

置く霜の深きに堪へて春を告ぐ小人の如きチュー・リップの芽よ
 死き師のもと曾て学びし友の短歌無事な証と心して読む

恩師去り写経一枚かんに入れ心ばかりの恩返しとせり
 春なのに雪風が身に沁む秩父森村誠一の講演を聞く

ニッコリと枕外せぬ病む友に季節の移りを克明に告ぐ
 春一番鳥防にかけし寒冷紗巻き上げられて粉雪の舞う

春の陽に輝き増し椿の葉青ほのかに紅差し初むる
 (評) 春の光の温もりに自然界も漸く命の胎動を感じられる。その動きを春の木の椿で捉えて描写し、いい歌になつてゐる。特に下の句で「ほのかに紅を差し始めた椿」に作者の繊細な感覚が反映されていると感じた。ただ、三句切れによって印象が一分されていて惜しい。例えば「春の陽に椿の葉光り葉がくれの青ほのかに紅差し初むる」とすれば「ほのかに」が生きてくる。感動の焦急化である。牧水の「秋父町出はづれ来れば機織の唄」の古り屋並に」と機織が核である。金子作自然体の生き方に共感。浅見作深く美しい努力に敬意。塙田作詠じよしよしよ。

三沢 新井 民子

皆野 金崎 塙田 千代
 下日野沢 皆野 新井 豊子
 上日野沢 皆野 新井 愛子
 三沢 山田 雅子
 下日野沢 金崎 四方田 利男
 皆野 新井 叶子
 野卷林 安井 武義 光代

岩肌の揺れ映える滝雪柳
 下日野沢 田端 マサ
 春暁や小鳥の眠り覚めやらず
 三沢 新井 民子
 紫は隠れる彩ふきのとう
 下田野 中田 久恵
 梅香る山鳩薄日をしのばせて
 金崎 設楽 武子
 寒さ越ゆ手塩にかけし鉄線花
 下日野沢 高山 ユウ

(評) 早春の日差しも柔らかい此の頃、凍ついた地上の現象も様変わりに温かさをまし、それについて人間社会の生活までが新する。その節目にあたる年度がわり、教育の場では新人生を迎える試験が一斉に行われる。この様な折に神社仏閣の繪馬堂や境内には、その大願成就を祈念する繪馬が納められ、なかには結婚願望のそれに混じつて、一攫千金の夢を狙った宝くじ、競輪、競馬の穴ねらい等の駕籠がひしめく景は、境内の梅花の馥郁たる香りと相まって、壯觀の極みとなる。ふきのとう光の中に目をさます

斑雪凍つ覗きて過ぎぬなんでも屋
 下日野沢 引間 富美子

妻つれて梅一輪や止る足
 三沢 横田 龍雲

陽を溜めて臘梅園の花ざかり
 下日野沢 浅見 好一
 春障子孫の就職決まりたる
 三沢 長谷河 ソノ
 冬の月二重に見ゆる齡なり
 下田野 根岸 進
 残雪の山に留す選挙戦
 三沢 横田 ハルジ

金沢 青木 富佐子

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。
 1人1句、1首に限ります。

8日必着

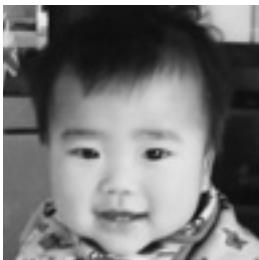
1歳のお誕生日おめでとう

りょうせい
凌征くん
(3月生まれ)



元金沢区
 持田 賢史さん
 晴香さん
 わんぱくでもいい
 たくましく
 育ってほしい!!

こうき
晃生くん



国神区
 丸山 剛夫さん
 順子さん
 いつも元気いっぱい
 の晃生。
 優しく健やかに育つ
 てね。

ゆうが
宥雅くん



駒形区
 新井 寿英さん
 佐知子さん
 宝物♡
 笑顔の絶えない元気
 なBOYになってね☆

しんたろう
慎太郎くん



駒形区
 中山 祥文さん
 由美さん
 誕生日おめでとう!
 これから成長が楽
 しみです♪

さら
紗羅ちゃん



腰区
 豊田 政人さん
 宏美さん
 産まれててくれて
 ありがとう。
 パパもママも紗羅が
 だいすきだよ。